

おっぱいだより

11号

先日、富山県立中央病院産婦人科医師の中野隆先生と、「日本母乳の会」運営委員の永山美千子先生を招いて「新潟市民病院 BFH にむけて」というタイトルで講演を行っていただきました。講演には病院内外から、医師、薬剤師、リハビリ、栄養士、看護師、助産師と様々な職種の方が86名集まりました。時間が延長してしまいましたが、ご参加くださった皆様、ありがとうございました！今回は、講演会の様子や内容をお伝えしようと思います。

永山 美千子先生

日本ではBFHの関心がようやく高まってきたところです。全国で現在60の病院が認定されています。世界でみると、国をあげて力をいれている所も多くあります。でもそれぞれの国で、習慣も文化も異なるのでそこにあった母乳の文化があります。

現在の日本は病院で出産するのがほとんどです。病院は病気を治す所というイメージがあり、その価値観の中から出産・育児が始まるのが現状です。病院という場所から女性が母親になり、自信をもって退院できるように手助けできる環境が必要なのです。



中野 隆先生

私の勤める富山では、県全体で母乳育児に向けて取り組んでいます。やはり一人の力、一つの病院というレベルではなく、県が進んで取り組む姿勢が、富山全体の母乳率を高めた結果だと思えます。

日本は食・生活の文化が急激に変化しました。日本以外に急激に変化した国はないと思います。その変化の中で「母乳育児」という当たり前のような事が難しくなっているのが現状です。富山は富山の特徵に合わせて推進してきました。新潟の風土に合った取組みがきっとあると思います。



新田副院長



近年乳児・児童虐待のニュースが連日のように流れています。その防止策にも母乳育児はなるのではないかと思います。なので、赤ちゃんが生まれたら、お父さんには少し我慢してもらって、「おっぱいは赤ちゃんにね。」って譲るのも必要になってきますね。

編集後記

多くのお母さん・赤ちゃんを見ているのですが、母乳がなかなか出ない、赤ちゃんが上手く吸えないなんて事は多々あります。そんな時はお母さんも赤ちゃんも辛いかもしれません。そんな姿をみると私達も「なぜそんなに母乳なの？」「ミルクでもいいのでは？」と思う時もあります。でも、そこから上手に吸えるようになって笑顔で退院されるお母さん達もたくさんいらっしゃいます。なかなか母乳が出ないおっぱいでも、飛ぶように出るようになる方もたくさんいらっしゃいます。BFHを全国、世界で進めなければいけないほど、母乳育児は難しくなっているのかもしれませんが、でも女性が出産し、母になり、赤ちゃんに母乳をあげるという自然な流れを少しでも手助けできたらと思っています。